

3. 2 岩手県の活動報告

岩手志援株式会社

1. 事業概要

(1) 事業の目的

東日本大震災被災者の生活安定を図るため、6次産業化を核とした生産・加工・販売の付加価値化を図り、被災地の雇用創出を目指す。同時に開発した商品を地域間連携で販売する事により、お互いが関心を持ち続け、繋がりを忘れない取り組みを実施する。基本は被災地・被災者の自立支援を促す事である。

(2) 実施体制、他団体との連携、他地域との連携状況

生産者

渡部さん みかん農家（南相馬より避難中）

三陸漁業生産組合（大船渡市）（漁師の殆どが被災者）

道の駅 やまだ（漁師及び生産者の多くが被災者）

加工

（有）とりたて市場（大船渡）

販売

山田のイベント

赤ニコ広場【赤塚一番通り商店街】

東北支援・鎌倉プロジェクト

東北ココロむすぶプロジェクト

連携

松山シルバー人材センター

和歌山県健康生きがいつくりアドバイザー協議会

岩手大学

株式会社 岩手ぴかぴか大作戦

(3) 事業の実施内容

1. 仮設住宅等での要望の収集

山田地区 大槌地区

現在、仮設住宅では物資等は落ち着いており、色々なボランティアやNPOなどが入って来て、困っているケースもあるとの事である。

・要望の多かった事

地域住民

- ①カラオケボックス
- ②ボーリング
- ③有名人のイベント
- ④参加型のイベント（コミュニケーション）

アマチュアのバンドや、芸などは各地からボランティアの人たちが早い段階から色々やってくれたので、言葉にはしないが、正直うんざりしている感がある。

農林漁業者の声

- ①売り先を確保してほしい
- ②6次産業化のやり方が分からない

その他

農業者及び漁業者は昨年色々な復興支援があり、売り先が確保されたが、今年に入り落ち着いている。地域内で販売しても売り先もお客さまも減っているため、価格が付かなくて困っている。

2. 山田地区の仮設住宅で新巻鮭を作っている飯田さんが関心のある方に買っていたきたいとオーダーがあった。被災者の成長や変化を継続的に取り上げた、岩手復活暦を同時に販売する事を実施した。



飯田さん

宮城県の別紙にて展開、和歌山健生とのタイアップ等で販売に成功した。オーダーもコンスタントにあり、予定数を完売した。

3. 山田町では漁師さんたちも仮設住宅に住む方が多い。また、地域の名産品である、しいたけが放射能の影響で出荷停止になっている事が大きな問題になっている。仮設住宅に住む、漁師さんや農家さんが出荷先として頼りにしているのが、『道の駅 やまだ』である。その施設の案内チラシが震災以前の物で案内先が流されたり、休業中だったりしている。そこで今回案内チラシの制作のオーダーがあり、岩手大学とのタイアップにより当社で制作する事となった。



山田の漁師さん



店舗内の撮影

4. 山田町は東日本大震災によって甚大な被害が出た、家屋が流され仮設住宅に住む方も多い。新巻きの飯田さんの繋がり、仮設住宅で色々な話を伺った。そこでどんな事を実施したら住民に喜んでいただけるかをみんなで考えた。

(株)岩手ぴかぴか大作戦の老田社長を中心にイベントを実施する事にした。そこで松山シルバー人材センターで視察に伺った時に、紹介をいただいた、南相馬市より移住して農業をやっている、渡部さんのみかんを被災地との交流の材料として活用させてもらう事とした。渡部さんにも内容を理解していただき快諾してもらった。また、盛岡市内の産直でも是非扱いたいとオーダーがあった。



渡部さんご家族

5. 三陸漁業生産組合（大船渡市）の6次産業化支援

現在、仮設住宅に住む漁業者も多く、外貨を稼ぐ事は大きなテーマとなっている。そこで、食べると美味しいが今までは捨てていた未利用資源【つぶ貝類類】を活用して加工品を作り、少しでも生産者の手取りを増やし、雇用の場を増やす事を目的とした。

ある程度の商品を開発して、板橋の赤ニコ広場（赤塚一番通り商店街）でテストマーケティングを実施して売価を含めお客さまから色々な意見をいただく事が出来た。



実際のテスト販売の様子



店頭にて

・量目・価格・味等課題が幾つか洗い出す事が出来た。そこでパッケージを含めアドバイスを実施した。漁師さんも実際に売場に来る事により、お客様とのコミュニケーションが可能となり、復興の意味や意義を伝える事が十分出来たと思う。漁師本人たちが、商品の事、震災の事直接お客様に伝える事が重要だと思ふ。商品の評判も良く、一定の成果があったと考えられる。



6. 鎌倉市での復興支援販売等の参加

東北ココロむすぶプロジェクトへの参加

鎌倉市内のNPO法人が中心となり、月2回販売会を実施している。また、スタッフの中には南相馬から避難して、こちらに移り住んでいる方も複数いる。その方を中心に行政等にもアプローチをしている。品揃えや商品のアドバイス等を実施した。



2. 事業成果

(1) 成果

- ・仮設住宅に住む飯田さんの新巻き鮭と、岩手復活暦カレンダーを同時に販売する事により、被災地や被災者の現状を伝える事が出来た。
- ・パンフレットのチラシを制作する段階で、被災した漁師さんたちから色々な話を聞いた。本当に良い物を作る事が復興支援に繋がると感じ、一生懸命制作した。
- ・地域（愛媛）と地域（岩手）（和歌山）を繋ぐ事がイベント（3月3日）及び物販で実現出来た。
- ・被災した漁師さんたちが販売を通して、地域（板橋）と地域（岩手）を繋ぐ事が出来て、同時に商品の高付加価値化も実現出来た。継続的な販売を実施する事により、繋がりが強固になるので、継続的に実施予定。
- ・鎌倉市で定期的に意図を持って販売会を実施する事により、色々な化学反応が起こっている。避難者とも連携して実施していて、愛媛のみかんも販売予定となっている。

(2) 問題点・課題

- ・まだ完全に終わっていないので、気を緩める事は出来ない。
- ・6次産業化のセミナーを実施する予定であったが、イベントが3月になってしまったため、難しくなった。

(3) 今後の展望

- ・物販というテーマを持って実施する事が、継続的に被災地・被災者への自立支援に繋がると考えている。お金を回し、仕事を作り、同時に関係者の誇りを取り戻す取り組みを、計画的に継続的に実施して行く事が被災地には求められている。復興は長い道のりなので今後も取り組みを継続して行く予定である。